

【乳汁検査まとめ】

はじめに

2022年において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

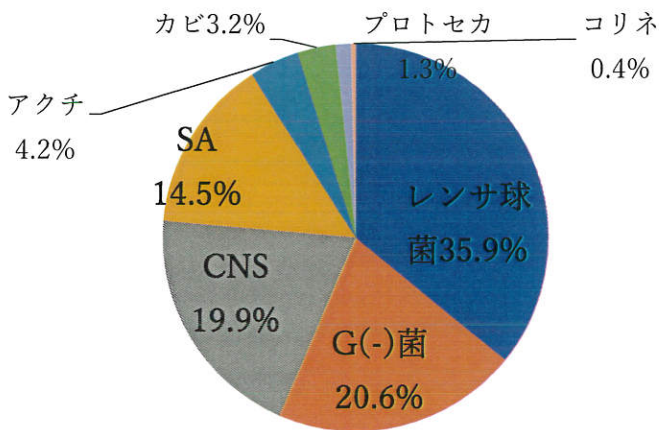
検査頭数は1855頭、検査分房数は3438分房で、菌の生えた分房数は1970分房、菌の検出されなかった分房数は1468分房でした（それぞれ重複を含む）。

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC 注	OTC 軟膏

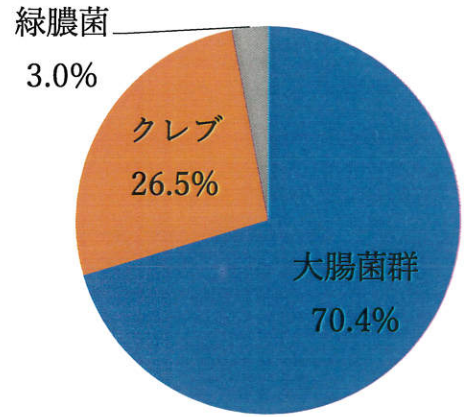
原因菌種割合

菌が検出された検体の中での雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌（※1）で、2番目に多かったのはG(-)菌（※2）でした。次いでCNS、SAと続きます。レンサ球菌、G(-)菌、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

- ※1 レンサ球菌にはOS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記



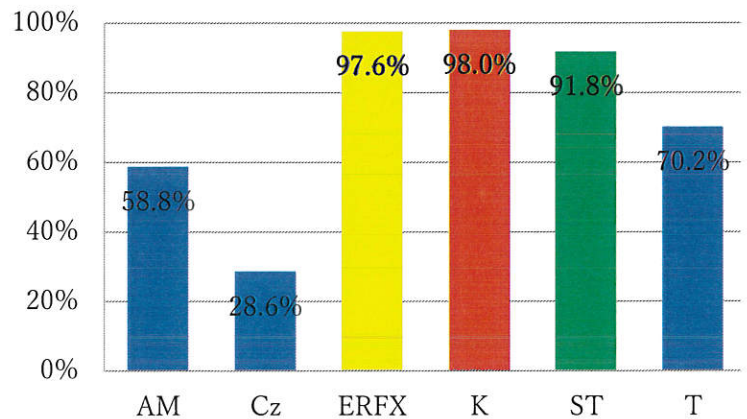
グラフ2 G(-)菌割合

※大腸菌群は大腸菌、その他の大腸菌群を含む

グラフ1にてG(-)菌としたものの内訳です。G(-)菌の発生分房数は362でした。大腸菌群が255分房で、割合は70.4%となり最多でした。クレブシエラは96分房で、割合は26.5%でした。緑膿菌は11分房で、割合は3.0%でした。

G(-)菌感受性割合

大腸菌 (255)



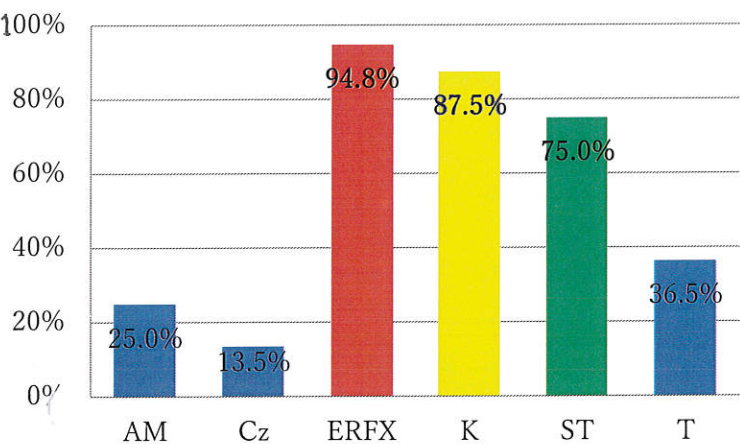
グラフ3 大腸菌群感受性割合



Total Herd Management Service

感受性割合の上位3つの薬品はK（カナマイシン・タイニーPK）、ERFX（バイトリル10%）、ST（トリオプリン）で、どれも感受性割合は90%を超えています。僅かではありますが、K（カナマイシン・タイニーPK）がERFX（バイトリル10%）を上回りました。T（OTC注、OTC軟膏）の感受性割合が昨年の72.4%と同程度の70.2%でした。

クレブシエラ (96)



グラフ3 クレブシエラ感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品は大腸菌群と同じERFX（バイトリル10%）、K（カナマイシン・タイニーPK）、ST（トリオプリン）です。昨年より3薬品とも若干感受性割合は低下しています。大腸菌群と比較してERFX（バイトリル10%）は同等の感受性割合を示しました。K（カナマイシン・タイニーPK）、ST（トリオプリン）は大腸菌群と比較して感受性割合は低く、ST（トリオプリン）は75%という結果になりました。T（OTC注、OTC軟膏）は昨年の44.6%より低下して36.5%と低い感受性割合となりました。

緑膿菌は検出分房数11で、感受性割合はERFX（バイトリル10%）が63.6%、ST（トリオプリン）、T（OTC注、OTC軟膏）はそれぞれ9.1%となりました。サンプル数が少ないため参考程度に考えて下さい。

最後に

大腸菌群、クレブシエラどちらもERFX（バイトリル10%）、K（カナマイシン・タイニーPK）、ST（トリオプリン）の3薬品が高い感受性割合を示し、T（OTC注・軟膏）は大腸菌群では70.2%となりましたが、クレブシエラに対しては36.5%で依然低い感受性割合を示しました。

大腸菌やクレブシエラを疑う乳房炎に対しては、臨床症状等でこの2菌種を区別することは難しく、検査してみないと判定できません。このことと、T（OTC注、OTC軟膏）の感受性割合を踏まえると、依然として最初の抗生剤選択において、T（OTC注、OTC軟膏）は選択しづらいと考えます。

全身症状（発熱や食欲不振等）が無く、乳汁・乳房の異常のみの乳房炎の初期治療において、全身への抗生剤投与はせず、軟膏注入のみで治療を行う方は多いと思われます。この時、大腸菌を含むG(-)菌の可能性を考慮してタイニーPKを使用してみたいかがでしょうか？抗生剤の慎重使用の観点からも、ERFX（バイトリル10%）を闇雲に使用するよりも良いです。

来月はSAやOS等のG(+)菌の感受性割合を紹介いたします。

富田大祐



Total Herd Management Service